

令和5年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	島根県松江市殿町1番地
管理機関名	島根県教育委員会
代表者名	教育長 野津 建二

令和4年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和4年4月1日（契約締結日） ～ 令和5年3月31日

2 指定校名・類型

学校名	島根県立隠岐島前高等学校
学校長名	野津 孝明
類型	グローバル型

3 研究開発名

離島発「グローバル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

4 研究開発概要

これまで本校が実施してきた生徒らがチームで挑む「地域課題解決型探究学習」およびシンガポール海外研修での成果発表は継続して実施する。今回の研究開発では、そういった探究学習のプロセスと各教科をつなぎ、教育内容を相互の関係性で捉える「地域未来探究」を構築する。「地域未来探究」では、探究学習に合わせて各教科で島前地域とシンガポールとの比較研究を行うことなどを想定する。これまでも英語科のパフォーマンステストとシンガポールでの最終発表スライドを連携させるなどしてきたが、これを数学や地歴・公民等の複数教科で展開する。そのために必要なリソースを地域内外の叡智を結集して構築する「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」に挑戦する。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

グランドデザインの実現(特に高校魅力化コンソーシアム)	研修①								研修②			研修③	
	教育庁各課横断の伴走												
学校運営協議会			研修										
探究学習推進	担当 者① 設定			ミニ 研修 ①					ミニ 研修 ②		ミニ 研修 ③	しま ね探 究フ ェス ②③	
	探究指導主事の伴走												
魅力化コーディネーター		研修											
	グランドデザイン研修・探究担当者研修への参加呼びかけ												
	コーディネーター訪問												
高校魅力化評価システムによる調査・検証			調査	フィ ード バック	研修								
	各校の検証												
人員配置													配置 決定
	予算要求												

(2) 実績の説明

①運営指導委員会の開催・授業や発表会への参加等

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会の実施				1回								1回
授業への参加				1回								1回
成果発表会への参加・助言												1回
事業の広報	1回			1回	1回		1回					

②体制支援・活動支援

グランドデザインの実現 (特に高校魅力化コンソーシアムへの支援)	島根県では令和3年度末に全県立高校がグランドデザインにもとづく高校魅力化コンソーシアムを構築。各校のグランドデザインの着実な実現を図るため、グランドデザインPDCA研修を実施。高校の管理職(校長・教頭)または主幹教諭、市町村担当者、コンソーシアム関係者等から各1名ずつの3名がコアチームを形成し参加。
地域との協働体制 (特に学校運営協議会への支援)	学校運営協議会の構築や運営に係る研修を実施。

(5) 研究発表会の開催							10/13					3/14
--------------	--	--	--	--	--	--	-------	--	--	--	--	------

(2) 実績の説明

① グローカルに課題解決を实践するプロフェッショナルによる授業の実施

今年度は下表の通りグローバルに課題解決に挑む講師を招聘して授業を実施した。

授業内の講話はもちろんのこと、講話後には様々な課題解決に取り組む生徒らから個別に質問する機会もいただいた。また、3月に実施予定の「探究学習成果発表会」でも運営指導委員の皆様やゲスト講師としてお越しいただく方々にもご参加いただき、探究学習に対するフィードバックやコメントをいただく予定。

いずれの授業でも、本気で挑戦する大人からいい刺激を受け、個々で取り組むマイプロジェクトへとつなげる生徒が複数みられた。

実施日	講師(敬称略)	所属等	内容	対象
4/11	福田貴之	NPO 法人 隠岐しぜんむら	隠岐島前地域の自然環境	3年生選択者 (地域地球学)
4/14			地域のごみ問題	
4/18			海士町の海岸漂着ごみと町のごみ処理	
4/21			地形と暮らし	
4/25	石原紗和子	隠岐ジオパーク推進機構	ジオパーク	
4/28	市川 力	一般社団法人 みつかる+わかる	探究を深めるフィールドワーク	1年生全員 (夢探究 I)
5/9	松浦道仁	焼火神社	焼火神社の歴史	3年生選択者 (地域地球学)
5/19	福田貴之	NPO 法人 隠岐しぜんむら	農業	
6/9			森林	
6/26	平山雄大	お茶の水女子大学 グローバル協力センター	ブータンのGNH	1年生希望者 (グローバル探究)
6~7月	ハワード・ライス	木造ヨット制作専門家	伝統舟復活	3年生選択者 (リベラルアーツ)
7/7	福田貴之	NPO 法人 隠岐しぜんむら	生物多様性	3年生選択者 (地域地球学)
7/11	熊平美香	一般社団法人 21世紀学び研究所	リフレクション(振り返り)	1年生全員 (ホームルーム活動)
10/12	浅井峰光	交交 株式会社	隠岐島前地域の電力消費	1年生希望者 (夢探究 I)
11/16	足立 岬	気仙沼まち大学運営協議会	気仙沼まちづくり・復興	2年生全員 (研修旅行)
	芦原昇平	一般社団法人 気仙沼地域戦略		
	岡本貴之	株式会社 岡本製氷冷凍工場		
	藤田一平	有限会社 藤田製函店		
	加藤拓馬	一般社団法人 まるオフィス		
	三浦亜美	一般社団法人 まるオフィス		
	千葉可奈子	一般社団法人 まるオフィス		
	今川 悟	気仙沼市議会議員		

	志田 淳	MEMENTO MORI KSNM DESIGN		
	熊谷俊輔	一般社団法人気仙沼市観光協会		
	小野寺紀子	株式会社オノデラコーポレーション		
1/20	藤代圭一	一般社団法人スポーツリレーションシップ協会	集中力の磨き方	1年生希望者 (運動系部活動)
3/14	藤井千春	早稲田大学 教育・総合科学学術院	探究成果発表の指導・助言	1・2年生全員 (探究成果発表会)
	山下一也	島根県立大学 しまね地域国際研究センター		
	市川 力	一般財団法人 みつかる+わかる		
	阿部裕志	株式会社 風と土と		
	道川一史	海士町立海士中学校		
	水谷智之	一般財団法人 地域・教育魅力化 プラットフォーム		
	熊平美香	一般社団法人 21世紀学び研究所		
	喜多下悠貴	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 株式会社		
	松尾奈美	島根大学 大学院教育学研究科		
	奥田麻依子	カリキュラム開発アドバイザー		
	駿馬敦史	島根県教育庁学校企画課		
長谷川勇紀	島根県教育庁教育指導課			
3/14	真野理佳	西ノ島町コミュニティ図書館	探究成果発表会講演	
3/22	田淵六郎	上智大学 総合人間科学部社会学科	探究学習の高大接続	1・2年生全員 (ホームルーム活動)

②国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施

今年度は海外渡航ができない状況の中でも、オンラインでブータンとの交流を実施し、「グローバル人材」を目指して国内外での知見や事例をどのように地域に活用するのかについて探究する機会を創出した。

第2学年が全員で行く「シンガポール海外研修」については、可能な限り新型コロナウイルス感染症拡大以前の状態に戻し、現地での研修に向けて計画・準備を進めたが、条件が整わず国内での代替研修へと変更した。昨年度は移動範囲の制限等から、島根県内での実施にとどまったが、今年度はより広い地域・視野で越境体験学習を重視したいとの狙いから、研修地を東北・東京と定め、東北芸術工科大学等の協力も得ながら、グローバルな視点で街づくりを主とした研修を行うことができた。

「グローバル探究（ブータン）」では「自然環境の保全」、「伝統文化の継承と推進」を探究テーマとして、選抜された4人の生徒が5月から2月にかけて探究活動を行った。JICA 職員やブータン研究者等とのオンライン研修や、隠岐島前地域で探究テーマに関する実践者へのインタビュー等を行い、自国や地域の自然環境及び伝統文化に関する理解を深めた。令和5年3月にはブータン現地で探究テーマに関する発表・意見交換を行うことにより、さらに理解を深め、地域貢献に関して考察を行う。

また、「グローバル探究」における取り組みについて、ブータンからの帰国後に島前地域内

で探究成果発表を実施し、島内の関係者とともこれまでの探究活動での学びを深めるとともに、グローバルな視点に基づいた取り組みに関し、地域への還元活動も積極的に行う予定である。

③地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施

当初の計画通り、カリキュラム・マネジメントを担当する主幹教諭を配置し、教員研修も複数回実施した。昨年度は、一昨年度構築した「地域未来探究」の枠組みを継承・発展させ、狙いを絞った教育プログラムの開発を行ったことに加え、教科シラバスに「学習内容と日常生活との関連及び活用が期待される場面」を明記させることにより、教科（科目）間のクロス・カリキュラムが行いやすい環境を整理した。今年度は、昨年度までの実績を継承・発展させ「教科学習と探究学習との往還」に主眼を置いたクロス・カリキュラムの実施を推進した。

第1学年に実施する「夢探究Ⅰ（総合的な探究の時間）」と各教科横断で実施した「地域未来探究」では、隠岐島前地域を題材に取り上げ、「地域×教科探究」として、多様な教科・科目の視点を活かしながら、「仮説の設定」または「検証方法の考察」に的を絞った教育プログラムを開発し、実践した。実践した内容は下表のとおり。

	ゼミテーマ	関係教科・科目
①	エネルギーゼミ	理科×数学
②	物語ゼミ	国語×地理・歴史
③	家ゼミ	理科×家庭

④「伴走者フォーラム」の実施

本年度は、以下の日程・内容等で実施した。何れの会も、多くの参加者があり、本校の実践事例の紹介をもとに、探究的な学びや教科横断的な学びについて、議論を深めるとともに、学校を超えた連携体制が構築された。

実施日	内容	参加者
4/17	「先生のマイプロとは？」学び共創オンラインフォーラム	82名
7/29	教科横断的な授業についての対面イベント	30名
8/26	教科横断的な授業についてオンライン勉強会	15名

⑤研究発表会の開催

今年度、以下の日程・内容で校内研究成果発表会を実施した。

10月13日：「失敗の日」

目的：「失敗を共に称え合う学校」つくりに向けて、これまでの踏み込みによる失敗を称え合い、これからの踏み込み（挑戦）を、生徒-教職員が一体となって考える機会とする。

3月14日：「探究学習成果発表会」

目的：地域の未来を見据えて、理想の探究のあり方を考える

- ・発表者が、探究学習の発表を通じて成果と今後に向けての課題を見出す
- ・生徒一人ひとりが、今後の探究学習における到達イメージを高める
- ・生徒1人ひとりが、今後の探究学習に生かしたい気づきや学びを見出す
- ・地域の方々に、高校の探究学習の取り組みを知っていただく

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

島根県と協働で開発した「地域・社会に開かれた教育を実現するため」の調査である「高校魅力化評価システム」の結果により事業取組の成果を分析する。6月に実施した調査結果の概要は次のとおり（表中の数字は肯定的回答の割合を示す）。

			主体性	協働性	探究性	社会性
高校としての 活動指標	③生徒の自己認識	R2年度	64.6%	78.0%	63.1%	69.0%
		R3年度	69.2%	79.6%	65.5%	73.7%
		R4年度	69.0%	76.4%	73.0%	69.1%
	① 行動実績	R2年度	76.4%	75.0%	67.5%	69.2%
		R3年度	78.8%	79.9%	69.8%	70.7%
		R4年度	79.3%	78.0%	74.0%	76.3%

「③生徒の自己認識」については、すべての項目で75%以上となることを目指していたが、「協働性」と「探究性」では上回ったものの、「主体性」と「社会性」では目標に及ばなかった。

「協働性」の個別項目を見てみると、「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる(91.4%)」で高い数値が出た。探究活動の中で他者の意見に耳を傾けながら異なる意見を尊重する活動の成果が出たものとする。

数値が70%に到達しなかった「主体性」や「社会性」の個別項目を見てみると、「自分にはよいところがあると思う(77.0%)」、「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる(78.9%)」、「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む(78.9%)」など目標を超えた項目もあったが、「私は自分自身に満足している(50.0%)」という結果から、自分の能力を十分に活かすことができていると感じる生徒が多いものと推測する。

「社会性」に関わる自己認識は、目標値に達しなかったものの、県内他校に比べて肯定的回答割合が高い。グローバル意識を聞く項目の中でも「地域の課題と世界の課題は関連していると思う(77.6%)」、「将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい(77.6%)」といった高いスコアから、本校の取り組みの成果が生徒の期待値として現れているものとする。

「④生徒の行動実績」については、全ての項目で83%以上となることを目指していたが、昨年度同様、全ての項目で目標を上回ることができなかった。しかし、「探究性」については数値が大きく伸びており、探究的な学習の成果が表れつつあると考えられる。また、「授業でわからないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた(82.9%)」、「友人などから、意見やアドバイスを求められた(78.9%)」、「自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた(77.0%)」、「先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした(87.5%)」となっており、他者と関わりながら探究性を深めていくことができていることが伺える。

調査結果の傾向は過年度と大きく変わらないが、「③生徒の自己認識」及び「④生徒の行動実績」とともに「探究性」のスコアが年度を経るにつれて上昇しており、事業の成果が現れ

ていると分析する。

<添付資料>目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

本事業への取り組みにより、地域の人的・物的資源等と協働しながら、探究的な学びの充実にむけたカリキュラム・マネジメントは確実に進んだ。これにより、本校の教育プログラムに対する県内外の関心や期待値が高まっている。反面、入学前の期待値に反して、自己の探究活動・実践活動に苦慮する場面等から、自己肯定感や自己有用感が十分育まねず、真の探究学習に踏み込めない生徒の姿が見られることが課題である。

本校は令和4年度から、「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」にも指定され、地域課題等に対してしっかりと向き合い、課題解決に向けてじっくり取り組める環境整備等を進めることにより、上述の課題解決に向けて取り組みたい。

本事業指定終了後は、管理機関やコンソーシアムからの支援及び新たな自己資金の調達等について積極的に研究・挑戦を行い、経費面・体制面ともに後退させないために、地域との協働による教育改革を、引き続き推進していく。

【担当者】

担当課	島根県教育委員会	TEL	0852-22-6057
氏名	長谷川 勇紀	FAX	0852-22-6026
職名	教育魅力化推進員	e-mail	hasegawa-yuki@pref.shimane.lg.jp